

ステップアップ STEP UP

2023年 **8月号**

■発行/陵南セミナー本部事務局

☎042(666)0099

〒193-0835 東京都八王子市千人町2-20-16

<https://www.ryonan.com>

チャレンジ！公立中高一貫校 大学合格実績を伸ばす第三のグループ

開校当初爆発的な人気となった公立中高一貫校ですが、近年では入試倍率も落ち着き、今年は武蔵高付属男子 3.1 倍、女子 2.8 倍、南多摩男子 3.9 倍、女子 4.4 倍、立川国際男子 3.3 倍、女子 4.3 倍など以前に比べだいぶ手が届き易くなってきました。

近年東京大学など首都圏難関大学入試においては、開成、筑駒、聖光、桜蔭、渋谷幕張、麻布、駒東、栄光、海城など私立・国立中高一貫校が完全に上位を占めています。つづく第二のグループが日比谷、西、国立などのかつての都立名門校の復活組、つづく第三のグループとして公立中高一貫校が勢力を伸ばしてきています。ここ数年応募倍率はやや減少傾向にあるものの、相変わらず人気は高く、かつてのような「宝くじ受験」のような受検生は少なくなり、適性検査に対する準備を念入りに積んだ実力のある受検生だけの戦いになってきました。

しかしこの適性検査対策は何年間も必要かというところ、そうでもありません。実際、陵南セミナーで毎年公立中高一貫校へ進んだ方々は、小6の2学期から本格的に準備を始めた方が多くなっています。小5までの勉強をきちんとやってきた子どもたちなら、この公立中高一貫校の入試は、案外簡単に手が届く範囲にある目標となるはずですよ。

2023年度適性検査徹底分析

<東京都立中高一貫校の適性検査Ⅱの共通問題に関して>

- ① 日常の事象を題材とし、数量の関係について思考・判断する力、言葉・数・式などを用いて論理的に考え表現する力、問題解決の過程や結果を数理的に考察・処理する力などをみる問題
 - ② 産業を題材とし、資料を多面的・多角的に捉え、資料相互の関連性を分析し、考えたことや選択・判断したことを表現する力を見る問題
 - ③ 水を題材とし、観察・実験の結果を基に身近なものの仕組みについて考察する力、的確に表現する力などをみる問題
- 上記大問3題の中から2～3題を各学校が選び、出題される。

ここ数年間、難易度は高いままを維持しており、試験時間内に解ける問題を確実に解くという練習が必要になってくる。①はプログラミングの思考を題材にしており、問題1が条件に合う正しい経路を探す問題だった。この正しい経路の導出と記述の両方において時間がかかる問題となっていた②の社会問題は第一次から第三次産業と六次産業化をテーマにした問題が出題された。六次産業化についての問題は、資料から二つの取り組みを選び共通する利点を記述するものであった。計算問題はなく前年度に続き資料の読み取りについて難易度は高くない。③の理科実験に関する問題では、難しい計算は出題されなかったものの、実験内容については似たようなものが少なく読み取りと記述に関して時間がかかる問題であった。難易度が高い問題

が最初に出題される傾向は続いており、解ける問題と解けない問題を判断し点数が取れそうな問題から解くことが重要である。

<南多摩中等教育学校>

適性Ⅰは読解問題が2題と作文問題が1題という構成で例年通りだった。しかし、昨年度が二つの文章が出題される形式であったのに対して、今年度は一つの文章が出題される形式に戻った。また、作文の字数制限が300字以上400字以内となり例年より減少した。文章のテーマは「知っているつもり」とはどのような状況であるのかと、「知識を身に付けること」で比較的読みやすいものだった。作文のテーマは「知識を身に付けること」であり、同様のテーマで作文の練習をしたことがある受検生は多かっただろう。手順で示されている内容について記述が不足すると大幅に減点になってしまうため、指示された内容を意識しながら作文の練習を行うことが必要である。適性Ⅱについては、例年通り大問3題すべて共通問題から出題されている。

<立川国際中等教育学校>

適性Ⅰは例年通り、一つの文章に対して読解問題が2題と作文1題の構成だった。文章のテーマは「自然破壊と自然保護」についてで、例年と変わらず読みやすい文章だった。作文については指示された内容について書くことが難しく、環境問題とは別に「学校生活におけるリーダーとして目標を達成する」上で「保全すること」の具体例を書くものであった。出題内容に沿った作文が書けたかどうか大きく差がついた部分であるといえる。適性Ⅱについては、例年通り大問3題すべて共通問題から出題されている。

<相模原中等教育学校>

例年適性Ⅰ(大問4題)と適性Ⅱ(大問4題)を通じて科学的・論理的思考力を問われる問題が出題される。今年度の試験からマークシート形式に変更されており、従来の計算問題においても8択の選択肢が与えられるようになった。しかし、従来通りの60文字程度の記述問題や、一部の問題では選択肢が与えられない問題も残っている。出題傾向としては従来と変更はなく、昨年以前の問題も参考問題として使用できる。

今年度は「線対称の図形」「電車の時刻表と経路の問題」「迷路内を照らす電球の配置」「さいころの目に従いコマを動かすゲーム」「温室効果ガスの排出量(資料整理)」などについて出題された。記述問題に関しては「自分が解決したい社会の抱える問題」と「日本の国字」について出題された。日本の国字の問題については字数制限の60文字に対して書くことが多いため、文章をうまくまとめる力も問われる。

グループ活動による検査については新型コロナウイルスの感染拡大以来中止されており、令和6年度においても実施されないと発表されている。



志望校別「過去問」完全対策

「過去問」は、こうやって取り組もう!

中学・高校受験のための学習には「系統的な対策」が大切です。では、「系統的な対策」とは何か?それは知識の断片的な習得ではなく、知識同士を有機的に結びつけて、生きた知識として活用できるようにすることです。ここでは「過去問対策」の基本姿勢を考えてみましょう。

01 系統的な学習によって基礎力をつくろう!

塾の先生も、入試問題を作成している学校の先生も、異口同音に「基礎が大事」と言います。では、「基礎」って何でしょう?いちばん悪いパターンは「基礎=やさしい内容、誰でも解ける問題」と勘違いしてしまい、基礎をおろそかにしてしまうことです。そういう受験生は、応用段階に移るときに必ずつまづいてしまいます。不得意な分野や項目をそのまま放置すると、このようなことになってしまうのです。

受験という「基礎」は、決して「やさしくて誰でも解ける内容」ではありません。論より証拠、実際の入試問題の6割は「基礎からできた問題」なのです。また、応用問題という身構えてしまう受験生が多いのですが、実際には基礎と基礎が組み合わされている場合がほとんどです。本当の「難問」はほんのわずかにすぎません。応用問題が難しいのは、その組み合わせ方が複雑だったり、ひと目ではわかりづらいからです。

いずれにしても、「基礎」をおろそかにしていると“小さな穴”がしだいに“大きな穴”になってしまいます。ですから、基本的な問題を繰り返し繰り返し復習してしっかりと基礎固めをしておきましょう。

02 とにかく早く過去問を解いてみるのが重要!

基礎力がある程度完成したら、とにかく過去問を実際に時間を計って解いてみましょう。まだまだ私は応用力がないから、過去問はまだまだ早い、と言ってなかなか手につけない人がいます。中には合格点が取れそうもないから、まだやりたくないなんて言う人もいます。十分に実力がついてからなんて言っていると手遅れになってしまいます。自分自身が満足できるような実力なんて、いつまでたっても永遠に身にはつきません。それよりもむしろ早めに過去問の練習をして、「ああ、自分はまだこんな得点しか取れないんだ」という現実を早く知ってほしいのです。事態の深刻さが認識できれば、早く何とかしなければならぬことに、きっと気づくはずですよ。

過去問演習は、過去5年分くらいを入試までに最低2回は練習しておきたいものです。1年分を時間を計って解き、答え合わせをして、さらに解説を読みながら復習をすると、1年分だけで6~7時間はかかります。5年分を2回練習すると1校分だけでも60時間以上になります。ですから本当に早く始めないと手遅れになってしまいます。遅くとも10月初めから始められるように準備しておきましょう。

03 実戦的な演習と系統的な復習を平行させて行こう!

過去問演習の1回目は、科目ごとに5年分くらいを連続して解くことがお奨め。1回目ですから当然合格ラインには遠く及ばない結果となるでしょう。でも5年分を通してやってみると、明らかに出題傾向がわかってきます。合格点は取れなかったけれども、自分はどこが苦手で、これから何を補強していくべきかが、はっきりと分かるはずですよ。

もちろんそれが分かったら、すぐに復習です。過去問演習は、何点取れたかに一喜一憂している場合ではありません。出題傾向と自分の苦手分野を分析して、とりあえずすぐに修復すべきところから手をつけていきましょう。この過去問演習&復習が、最も確実に実力をアップさせ、得点力を身に付けていきます。

04 弱点を補強しつつ、実戦的な演習の仕上げをしよう!

最終段階での過去問演習は、より実戦を意識した取り組みが必要になってきます。具体的にいえば、①試験時間を意識して時間を決めてすばやく解くようにところかける、②出題傾向を意識してどの問題から手をつけるかを考える、③大問1つひとつに何分ずつ時間をかけるか作戦を立てる、④絶対にミスをしないように丁寧に答えるクセをつける、⑤確実に合格ラインを超えるよう真剣に取り組む...などです。

過去問演習で大切なことは、1回目も2回目も、必ず決められた時間を守り、すぐに答え合わせをする。そしてじっくりと解説を読んで納得できるまでやり直してみる。結果は得点表を作って机の前などに貼っておくことです。

塾での学習も、かなり実戦を意識した内容になってきます。公開テストなどで明らかになった自分の弱点の補強も必ず行いましょう。自宅では弱点の補強をしつつ、応用力をさらに高める学習を続けるのです。「過去問対策」に終わりはありません。極端に言えば、入試当日まで続くのです。

「過去問」なんでも Q&A

「過去問を解いて何の役に立つの?」と思う人も、なかにはいるかもしれません。しかし、過去問とは単に「過去に出た問題」ではなく、入試問題の「入口」であり、過去問を解くことは入試本番で合格ラインを突破できる“力”にもつながっていくのだ。ここでは、過去問にまつわる疑問や不安に対して、お答えしてゆきます。

Q1 「過去問」はいつごろから始めればいいのか?

A 受験生の学力状況によって多少の違いはありますが、できれば9月から、遅くとも10月初めには開始して、自分自身の現在の学力状況を把握しましょう。

「過去問」に取り組む第一の目的は、その学校の入試問題がどのような内容なのかを知ることです。ただ解いて、採点をして、「何点取れた!」「何点しか取れなかった!」ということだけに一喜一憂していても、成果はほとんど期待できません。

また、まだ基礎がしっかりしていない時期に過去問に取り組むと、「難しい!」と感じてしまい「こんなことで大丈夫だろうか」と、不安感を持ってしまう結果にもなりかねません。多くの受験生はこの時期、過去問に取り組んでも「良くて半分」というのが普通なのです。「過去問」に取りかかる時期は、受験生個人の学力状況や志望校によって異なりますが、一般的には、塾の夏期講習で十分に基礎を固めた、9月ごろが望ましいといわれています。余裕のある受験生なら夏休みに入ってから取り組んでもかまわないのですが、いきなり第1志望校の問題に取り組むと、かえって自信をなくしてしまう恐れもあるので、慎重に見きわめましょう。

Q2 第1志望校の「過去問」は何年分解けばいいの?

A 第1志望校なら、必ず数年分は解いてみましょう。すべての学校を数年分する必要はありません。一応の目安は第1志望校で過去5年分くらいを2回です。あまりにも古い問題は出題傾向や難易度が全く違っているケースもあります。

あくまでも「理想」ですが、一般的には1つの受験校について「科目別に5年間分」「受験前に年度別に5年間分」というふうに5年間分を2回が望ましいと言われています。しかし、それは学力状況や受験する学校の校数、試験の回数によって、変化していきます。また、入試問題の「質」や「量」によっても左右されます。したがって、これはあくまでも「目安」として考え、多少の誤差は気にしないでもいいでしょう。

一方、同じ入試問題を続けて3回も4回も解くことはやめましょう。なぜなら答えを覚えてしまい、何も考えずにスラスラ解けてしまうからです。そしてそれを自分の実力だと勘違いして受かった気になってしまうからです。

「過去問」はあくまでも過去の問題ですから、言い換えればその学校では二度と出ない問題です。全く同じ問題を何年も連続して出題する学校はありません。ですから時間に余裕があるときには、志望校と同レベルかあるいは少し高いレベルの他校の入試問題を解いてみる方がいいでしょう。確実に得点力がアップします。各学校の入試問題作成者は、必ず2～3年前までの同レベルの他校の入試問題を研究しています。いい問題だなと思うと、そっくりな問題を出題します。いろいろな学校の過去問の練習をしている人は、入試本番で必ず「あれっ、見たことある!」という驚きが何回もあります。

Q3 第2志望、第3志望の学校の過去問はどのくらいやればいいのでしょうか?

A 第2志望は3年分を2回くらい、スベリ止め校は2年分を1回でいいと思います。「何点取れるか」よりも「どんな内容なのか」をしっかりと確認することが重要

第3志望校ともなると、問題もやさしく感じられるかもしれませんが、第3志望校だから「問題も簡単」と考えるのは間違いです。出題形式や解答形式は、学校によってかなり変わる場合があります。時間的な余裕にもよりますが、できれば2年間分は取り組みたいのは、そんな理由からです。過去問は「どんな問題が、どんな形式で出題されるか」を知るために取り組むものです。そのためには、できる限り何回かは取り組むことが必要だと考えられます。

また問題を解く際には最初から順に解き進むのではなく、一番早く解けそうな問題を先にすませ、苦手な分野や解答に時間がかかりそうな問題をあとに回すと時間を有効に使うことができます。こうすることによって、問題全体を見渡して自分なりに時間配分ができ、実際の入試で大きな失敗をすることがなくなるはずです。

Q4 入試直前だと、取り組み方も違ってくるの?

A 入試直前になったら、実際の試験時間を強く意識して、より実戦感覚で臨みましょう!ゲーム感覚も取り入れよう!

入試直前になると、より実戦的な取り組みが必要です。「いかに得点に結びつけるか」を強く意識しながら演習していきます。具体的には、各年度の問題を実際の試験時間とおりの時間内で解いていきます。ここでは、問題が解けるかどうかよりも、得点しやすい問題と得点しにくい問題とを見きわめるところと、見きわめをもとにして、問題を解いていく順番を考えることが重要です。決められた時間内にどうやって確実に得点を積み上げて行か、ということです。すぐに得点表に記入し、さらに合格、不合格もしっかりと大きく書き込んで、毎回「ゲーム感覚」で楽しみながら続けてみましょう。

Q5 「過去問が難しすぎて、点が取れないんだけど……」

A 早い時期では、点が取れないのはあたり前です。入試直前に7割取れば十分です。合否のボーダーラインは60～70%

基礎が完成していない時期に過去問に取り組むと、難しく感じる

のはあたり前のことです。最初の段階では、過去問に触れるだけでいいのです。そうすれば、次第に得点力もアップしていきます。地道な努力を積んでいけば、初めの得点より悪い点を取ることはありません。合格ラインに少しでも近づくように、塾の学習と平行して地道に過去問対策を続けていきましょう。

塾でのテストや「公開テスト」では、つねに「満点をめざして」努力していると思います。しかし、すでにご存知のように、実際の入試本番では「60～70%が合格ライン」です。難易度や配点にもよりますが、難しく解けない問題があっても必要以上に心配しないことです。難問は、どんな受験生にとっても難しいのです。ただし、「誰でも得点できる問題」は確実に得点できるようにしてください。入試本番でも、難しい問題が解けなかった人ではなく、誰でも解ける問題をミスした人が不合格になってしまうのです。

Q6 「過去問」と普段の学習……どっちが優先?

A もちろん、普段の学習を優先して進めましょう。過去問に振り回されては、本末転倒です。過去問演習はたいへん時間がかかります。時間に余裕のある日だけ取り組みましょう。最後まで、塾での学習があくまでも中心です。

過去問を“こなす”ことに気をとられてはいけません。塾での学習をおろそかにしていると、幅広く、確実に入試問題に対応していくことが難しくなります。あくまでも塾が優先です。過去問は、自宅で取り組む場合がほとんどだと思いますが、その際、自宅学習が過去問対策に終始してしまうという事は避けるべきです。「何曜日はこの学校の過去問に取り組む」などと予定を立てて効率よく取り組みたいものです。

また、前述したとおり過去問はあくまでも過去の問題であって、これがそのまま入試本番で出るわけではありません。むしろ二度と出ない問題とも言えるのです。直前になると自宅学習のほとんどすべてが過去問練習だけになってしまう人がいますが、たいへん危険です。過去問を解いた上で、自分の弱点をしっかりと補修しなければ、実力はまるでUPしません。

Q7 問題集によって解答・解説が違うんだけど!?

A これは本当によくあることです。そんなときは、自分の解答が含まれているものや、近い解答・解説を正解にしましょう。どちらが正解かで悩む必要はありません。

入試問題の解答は、「これが正答」と明確に出るものばかりとは限りません。ここ数年は、各学校とも記述式・論述解答を増やす傾向にあります。「理由」や「原因」を記述式解答で問う問題や、「考え方を書く」問題は、問題集によって解答や解説が異なる場合があります。「市販の問題集なのに解答や解説が異なるのはおかしい」と思うかもしれませんが、こういう場合は学校が模範解答を公表していないケースがほとんどです。ですから出版社が独自に(アルバイトを駆使して)解答を作っているからです。また記述式問題の場合、出題する学校としても、実は複数の「解答例」を想定しながら入試問題を作っています。なかには一つの設問に20もの「解答例」を想定する場合もあるとか。実際に採点する場合は、受験生の解答と学校が作成した解答例とを慎重に照らし合わせながら、部分点を考慮しつつ、採点作業を進めています。「学校が作成している模範解答を見たい」という声をよく聞きますが、実際には複数の模範解答が存在しているので、公表しない学校も多いのです。



6月 月例テスト成績優秀者

小4受験科

◆国語

- ① 67 今井すみれ めじろ
① 67 小林 咲良 桜美林
③ 58 加賀屋佑青 桜美林

◆算数

- ① 75 尼ヶ崎璃咲 七国
② 65 中山 佳歩 めじろ
③ 60 今井すみれ めじろ
③ 60 秋谷 光璃 多摩境
③ 60 小林 咲良 桜美林

◆2教科合計

- ① 127 今井すみれ めじろ
① 127 小林 咲良 桜美林
③ 114 尼ヶ崎璃咲 七国

◆理科

- ① 42 小林 咲良 桜美林
② 40 加賀屋佑青 桜美林
③ 35 秋谷 光璃 多摩境

◆社会

- ① 42 加賀屋佑青 桜美林
② 40 小林 咲良 桜美林
③ 38 田所 英 七国

◆4教科合計

- ① 209 小林 咲良 桜美林
② 195 加賀屋佑青 桜美林
③ 191 今井すみれ めじろ

小5受験科

◆国語

- ① 76 若井 都羽 めじろ
② 70 藤原 咲里 めじろ

② 70 林 辰樹 桜美林

◆算数

- ① 95 林 辰樹 桜美林
② 83 石川 栞葵 めじろ
③ 63 藤原 咲里 めじろ

◆2教科合計

- ① 165 林 辰樹 桜美林
② 137 若井 都羽 めじろ
③ 135 石川 栞葵 めじろ

◆理科

- ① 66 林 辰樹 桜美林
② 50 石川 栞葵 めじろ
③ 48 若井 都羽 めじろ

◆社会

- ① 68 林 辰樹 桜美林
② 60 角田 圭 めじろ
③ 56 石川 栞葵 めじろ

◆4教科合計

- ① 299 林 辰樹 桜美林
② 241 石川 栞葵 めじろ
③ 231 若井 都羽 めじろ

小5学習科

◆国語

- ① 90 船津丸怜未 多摩境
② 88 長良 潤平 高幡
③ 82 木村 隼也 七国
④ 81 小林 樹生 桜美林
④ 81 菊池 晴稀 中神

◆算数

- ① 96 長良 潤平 高幡
① 96 菊池 晴稀 中神
③ 88 福島 世惟 めじろ

- ④ 84 谷合 晃 北八
④ 84 日下部美咲 中神
④ 84 木村 隼也 七国

◆英語

- ① 100 竹内 瑛都 高幡
① 100 小畑 美優 北八
① 100 小林 樹生 桜美林
④ 97 日下部美咲 中神
⑤ 95 金子 奈緒 高幡
⑤ 95 長良 潤平 高幡
⑤ 95 船津丸怜未 多摩境
⑤ 95 菊池 晴稀 中神
⑤ 95 木村 隼也 七国

◆3教科合計

- ① 279 長良 潤平 高幡
② 272 菊池 晴稀 中神
③ 261 小林 樹生 桜美林
③ 261 木村 隼也 七国
⑤ 259 日下部美咲 中神

小6受験科

◆国語

- ① 91 伊藤 華音 多摩境
② 88 大河原大海 多摩境
③ 87 小峰 優希 みなみ
④ 84 森 綾音 橋本
⑤ 81 石川 帆椰 めじろ
⑤ 81 染葉 紅 淵野辺

◆算数

- ① 100 伊藤 華音 多摩境
② 96 荒田 一秀 めじろ
② 96 石川 帆椰 めじろ
② 96 近藤 秀祐 豊田
② 96 須田 大翔 桜美林

◆2教科合計

- ① 191 伊藤 華音 多摩境
② 183 大河原大海 多摩境
③ 179 森 綾音 橋本
④ 177 石川 帆椰 めじろ
⑤ 168 越 一颯 みなみ

◆理科

- ① 63 高野 陽 高尾
② 60 伊藤 華音 多摩境
③ 58 須田 大翔 桜美林
④ 56 小峰 優希 みなみ
⑤ 55 森 綾音 橋本

◆社会

- ① 68 越 一颯 みなみ

- ② 62 高野 陽 高尾
③ 58 伊藤 華音 多摩境
③ 58 森 綾音 橋本
⑤ 56 荒田 一秀 めじろ
⑤ 56 安藤 希月 高尾

◆4教科合計

- ① 309 伊藤 華音 多摩境
② 292 森 綾音 橋本
③ 285 高野 陽 高尾
④ 284 越 一颯 みなみ
⑤ 275 大河原大海 多摩境

小6学習科

◆国語

- ① 93 岸 莉央奈 多摩境
② 91 堤 友理華 北八
③ 90 東條 真歩 高幡
③ 90 譜久村彩那 七国
⑤ 88 神宮字 翔 高尾
⑤ 88 川村こはる 中神
⑤ 88 小泉 幸愛 淵野辺

◆算数

- ① 100 神宮字 翔 高尾
① 100 福田 蒼太 中神
① 100 川村こはる 中神
④ 96 山田 桜菜 中神
⑤ 92 中野 寧音 七国

◆英語

- ① 100 河野 遼太 めじろ
① 100 神宮字 翔 高尾
① 100 東條 真歩 高幡
① 100 井上 美幸 北八
① 100 青柳 奏音 中神
① 100 中野 寧音 七国

◆3教科合計

- ① 288 神宮字 翔 高尾
② 278 東條 真歩 高幡
② 278 川村こはる 中神
④ 275 中野 寧音 七国
⑤ 261 河野 遼太 めじろ

中1受験科

◆国語

- ① 100 海面 凛公 多摩境
① 100 奥田 栞 桜美林
① 100 松尾 和南 中神
④ 98 森 祐太 北八
⑤ 95 齊藤 風沙 橋本
⑥ 91 石川 帆波 多摩境



⑦ 90 岸 咲帆 高 幡
 ⑧ 89 村下 茜 西 八
 ⑧ 89 宮木 大和 北 八
 ⑧ 89 篠崎 満帆 桜美林

◆数 学

① 100 町田 臣斗 めじろ
 ① 100 伊藤 娃子 めじろ
 ③ 96 岸 咲帆 高 幡
 ③ 96 渡辺 悠生 高 幡
 ③ 96 海面 凜公 多摩境
 ③ 96 中矢 一心 桜美林
 ③ 96 奥田 栞 桜美林
 ③ 96 篠崎 満帆 桜美林
 ③ 96 鈴木 琢真 七 国
 ⑩ 92 宮林 昂輝 多摩境
 ⑩ 92 森 祐太 北 八
 ⑩ 92 宮木 大和 北 八
 ⑩ 92 松尾 和南 中 神

◆英 語

① 100 渡辺 悠生 高 幡
 ① 100 海面 凜公 多摩境
 ① 100 齊藤 凪沙 橋 本
 ④ 98 伊藤 娃子 めじろ
 ④ 98 森 祐太 北 八
 ⑥ 96 山本 実歩 多摩境
 ⑥ 96 松尾 和南 中 神
 ⑧ 94 秋元尚太朗 桜美林
 ⑧ 94 川下 結愛 淵野辺
 ⑩ 92 愛甲 妃那 橋 本
 ⑩ 92 濱本 健 中 神

◆3教科合計

① 296 海面 凜公 多摩境
 ② 288 森 祐太 北 八
 ② 288 松尾 和南 中 神
 ④ 280 奥田 栞 桜美林
 ⑤ 276 岸 咲帆 高 幡
 ⑤ 276 渡辺 悠生 高 幡
 ⑦ 271 齊藤 凪沙 橋 本
 ⑧ 270 伊藤 娃子 めじろ
 ⑨ 265 篠崎 満帆 桜美林
 ⑩ 260 鈴木 琢真 七 国

中2受験科

◆国 語

① 92 河内 彩夏 豊 田
 ② 91 田山 功士 めじろ
 ② 91 柿澤 榛太 橋 本
 ④ 90 蛭名 大己 みなみ
 ④ 90 山下勘太郎 みなみ
 ⑥ 89 武田 和也 みなみ
 ⑦ 88 佐藤 瑠菜 高 尾
 ⑦ 88 藏方 理子 豊 田
 ⑨ 87 浅見 栞里 めじろ
 ⑨ 87 赤嶺 花菜 高 尾

◆数 学

① 100 蛭名 大己 みなみ
 ② 96 中嶋 哲志 めじろ
 ② 96 岡本真優果 高 幡
 ② 96 武田 和也 みなみ
 ⑤ 95 松宮 旭輝 めじろ
 ⑤ 95 田山 功士 めじろ
 ⑤ 95 中嶋 弘一 めじろ
 ⑤ 95 秋山 蓮 めじろ
 ⑤ 95 飯草 杏 高 幡
 ⑤ 95 渡邊 玄哉 みなみ

◆英 語

① 100 水越 ゆい 豊 田
 ② 96 田山 功士 めじろ
 ② 96 青柳 遥香 中 神
 ④ 92 吉藤萌々希 高 尾
 ④ 92 飯草 杏 高 幡
 ④ 92 河内 彩夏 豊 田
 ④ 92 小林 実樹 桜美林
 ④ 92 山端みくあ 中 神
 ④ 92 古川 信治 中 神
 ④ 92 竹内 優果 淵野辺
 ④ 92 宮崎 莉希 七 国

◆3教科合計

① 282 田山 功士 めじろ
 ② 278 蛭名 大己 みなみ
 ③ 275 河内 彩夏 豊 田
 ④ 269 飯草 杏 高 幡
 ⑤ 267 藏方 理子 豊 田
 ⑤ 267 小林 実樹 桜美林
 ⑦ 266 中嶋 弘一 めじろ
 ⑧ 263 柿澤 榛太 橋 本
 ⑧ 263 古川 信治 中 神
 ⑩ 262 松宮 旭輝 めじろ
 ⑩ 262 浅見 栞里 めじろ

中3受験科

◆国 語

① 100 佐藤 翔太 桜美林
 ② 98 糠信 咲希 みなみ
 ③ 96 樋川 大知 桜美林
 ③ 96 加藤慶太郎 中 神
 ③ 96 増田 尚人 淵野辺
 ⑥ 94 高橋 苺 めじろ
 ⑥ 94 佐々木 岳 桜美林
 ⑥ 94 大野 瑞葵 桜美林
 ⑥ 94 溝端 安里 中 神
 ⑥ 94 佐藤 歌音 中 神
 ⑥ 94 謝 滢美 淵野辺
 ⑥ 94 小泉 海人 淵野辺

◆数 学

① 92 富田 紗月 高 幡
 ① 92 北田 結 高 幡
 ① 92 篠原 京雅 多摩境

① 92 功刀 洋人 多摩境
 ① 92 紮 恵依 桜美林
 ① 92 小泉 海人 淵野辺
 ① 92 丸山 友希 淵野辺
 ⑧ 88 塚田 梓夏 めじろ
 ⑧ 88 高橋 隼人 めじろ
 ⑧ 88 樋口 智也 豊 田
 ⑧ 88 近藤 良祐 豊 田
 ⑧ 88 北村 心陽 桜美林
 ⑧ 88 竹内 優斗 桜美林
 ⑧ 88 座間和花南 桜美林
 ⑧ 88 馬場 睦月 桜美林

◆英 語

① 97 原 野乃花 高 幡
 ① 97 富田 紗月 高 幡
 ③ 96 高橋 苺 めじろ
 ③ 96 高橋 隼人 めじろ
 ③ 96 岡村 涼那 めじろ
 ③ 96 飯塚 実咲 高 幡
 ③ 96 鎌田 唯花 高 幡
 ③ 96 渡部 麻惟 高 幡
 ③ 96 梅咲絵理香 高 幡
 ③ 96 矢島 季歩 橋 本
 ③ 96 大野 瑞葵 桜美林
 ③ 96 謝 滢美 淵野辺

◆3教科合計

① 275 北田 結 高 幡
 ② 274 高橋 苺 めじろ
 ③ 271 糠信 咲希 みなみ
 ④ 268 近藤 良祐 豊 田
 ⑤ 267 富田 紗月 高 幡
 ⑤ 267 小泉 海人 淵野辺
 ⑦ 266 北村 心陽 桜美林
 ⑦ 266 佐々木 岳 桜美林
 ⑦ 266 溝端 安里 中 神
 ⑩ 265 小川 春陽 高 幡
 ⑩ 265 紮 恵依 桜美林

◆社 会

① 91 高橋 苺 めじろ
 ① 91 近藤 良祐 豊 田

③ 89 渡部 麻惟 高 幡
 ④ 86 野原 廉也 多摩境
 ⑤ 85 樋口 智也 豊 田
 ⑥ 82 塚本エミリー 高 幡
 ⑦ 80 尾花 勇我 南大沢
 ⑧ 79 玉里 琥生 多摩境
 ⑨ 77 安達 優愛 北 八
 ⑩ 76 塚田 梓夏 めじろ
 ⑩ 76 高橋 隼人 めじろ
 ⑩ 76 飯塚 実咲 高 幡
 ⑩ 76 竹内 美結 高 幡
 ⑩ 76 篠原 京雅 多摩境
 ⑩ 76 山田梨々花 多摩境
 ⑩ 76 青井 瑠珂 北 八
 ⑩ 76 加藤慶太郎 中 神

◆理 科

① 91 高橋 隼人 めじろ
 ② 85 玉里 琥生 多摩境
 ② 85 土田 颯菜 七 国
 ④ 83 篠原 京雅 多摩境
 ⑤ 82 高橋 苺 めじろ
 ⑤ 82 近藤 良祐 豊 田
 ⑤ 82 功刀 洋人 多摩境
 ⑧ 80 竹内 美結 高 幡
 ⑨ 79 倉迫 詩織 豊 田
 ⑨ 79 増田 尚人 淵野辺

◆5教科合計

① 447 高橋 苺 めじろ
 ② 441 近藤 良祐 豊 田
 ③ 425 高橋 隼人 めじろ
 ④ 418 篠原 京雅 多摩境
 ⑤ 417 佐々木 岳 桜美林
 ⑥ 416 溝端 安里 中 神
 ⑦ 415 渡部 麻惟 高 幡
 ⑧ 413 北田 結 高 幡
 ⑧ 413 樋口 智也 豊 田
 ⑩ 410 糠信 咲希 みなみ



夏期講習の学習のポイント

小学部受験科

<小4受験科>

さあ、みんな待ちに待った夏休みです。今年も海へ山へ、楽しい計画がもりだくさんのことでしょう。でも何もかもすっかり忘れて遊んでばかりいると、長い長い40日間の休みといえども、あっという間に終わってしまいます。今年の夏休みはしっかりと計画を立て、勉強するときは集中して勉強し、遊ぶときはしっかり遊ぶような、充実した休みにしましょう。

夏期講習前期は前期、後期を通じて、2学期に学習する予習シリーズ4年⑤の内容を先取り学習してゆきます。新しい内容がどんどん出てきます。塾で学習した内容は、その日のうちに復習してしっかりと身につけてゆきましょう。

<小5受験科>

長い夏休みですが、塾の講習会ではできる限り1日も休まないでしっかりと勉強し、遊ぶときはしっかりと遊んでメリハリのある毎日を送るように、計画を立ててみましょう。

夏期講習は前期、後期を通じて、2学期に学習する予習シリーズ5年⑥の内容を先取り学習してゆきます。授業中解けなかった問題だけでいいですから、必ずその日のうちにもう一度自力で解いてみてください。

<小6受験科>

さあ受験生のキミたちにとって最大のヤマ場、夏休みがやってきました。毎年夏休みを境にグングンと力を伸ばす子どもたちがたくさんいます。それは夏休み期間中にいかに集中して、そして大量の勉強時間が取れたかどうかにかかってきます。でも、ダラダラと長時間机に向かってもあまり効果がありません。1時

間ごとに10分程度の休憩をはさみ、やるべきときはグッと集中して頑張りましょう。

講習会での宿題以外にも、夏休み中に予習シリーズ5年④～6年④の復習を全教科ひと通り（特に苦手な所だけでも）しておきましょう。9月からの偏差値がグンとアップします！

夏期講習は前期・中期・後期（各8・8・9日間）計25日間の長丁場ですが、1日も休まないようにがんばりましょう。

テキストは、新しい「予習シリーズ6年⑥」に入ってゆきます。シリーズ6年⑥は今までの復習内容で、新しく覚えることはほとんどありません。シリーズ6年④までに学んだ基礎を再確認しながら、さまざまな入試問題に取り組み、実戦的な得点力を徐々に身につけてゆきます。

<公立受験対策>

前期は、作文の基本、語彙力、地図やグラフの内容を読み取り、分析する練習を集中的に行います。グラフから数値を読み取り計算する問題がありますので、概数の考え方に慣れていきましょう。記述の注意点は、ただ数値をそのまま書き写して「報告」を書くのではなく、数値からの「分析」を意識して、何が読み取れるのかを自分の言葉で説明するようにしてください。

中期は、前期の内容を踏まえて、実験・観察からの問題を解いていきます。後期に向けて基礎知識と分析力・表現力を身につけていきましょう。

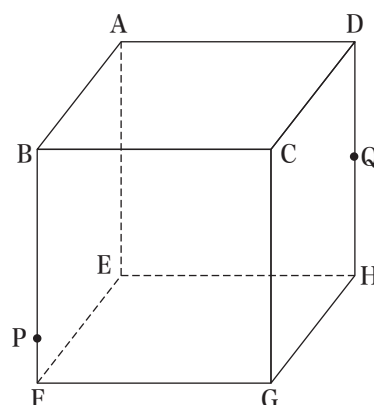
後期は、世界の中での日本や、環境とエネルギー、日本の歴史と文化などを中心に演習していきます。また、課題文を読んでからの作文も練習してゆきます。

算数に挑戦 5分で解けたらキミは天才!!

●友達や家族みんなで挑戦してみよう。賞品がもらえるよ!

問 右の図のように、1辺が12cmの立方体ABCD-EFGHがあり、点Pは辺BF上、点Qは辺DH上の点で、BP=10cm、DQ=6cmです。3点A、P、Qを通る平面でこの立方体を切断します。この切断面と辺FG、辺GHが交わる点をそれぞれR、Sとします。次の問いに答えなさい。

- ① FR、SHの長さはそれぞれ何cmですか。
- ② 切断してできた立体のうち、点Eを含む立体の体積は何cm³ですか。
- ③ 切断面とCEが交わる点をNとすると、CN:NEを求めなさい。



★この問題が解けた塾生の皆さんは、ハガキに解答と住所・氏名・学年・教室名を記入の上、本部事務局(P.1参照)まで応募してください。
正解者全員に粗品をプレゼントします。
(応募〆切) 2023年8月5日消印まで有効。

夏期講習の学習のポイント

小学部学習科

いよいよ夏休みですね。「何もかも忘れて思いっきり遊ぶぞ」と意気込んでいるキミ！絶対に忘れてはいけないのが勉強です。しっかりと計画を立て、この貴重な夏休みの間に自分の弱点を克服し、実力アップに取り組んでください。

1 夏期講習中は、その日の復習をしっかりと

夏期講習前期は、復習中心の授業です。今まで習った内容でまだ理解できていない部分を発見し、克服するよい機会です。授業が終わり家に帰ってから、必ず授業の復習をしてください。30分程度でもかまいませんので、自分の間違えた問題をもう一度自力で解いてみましょう。夏期講習後期は、2学期の内容も出てきます。新しく習う単元ですから、できる限り1日も休まずに授業に参加しましょう。

2 基礎力をつけよう

算数の計算や国語の漢字は、毎日毎日の積み重ねで身につけていくものです。今まであまり練習する習慣のなかった人は、この夏休みを利用して練習の習慣を身につけてください。あまり厚くない計算と漢字のドリルを利用し、毎日練習する量を決めて実行してください。

3 苦手教科を克服しよう

講習会のない期間は、苦手な教科を中心に勉強するとよいでしょう。ふだん使っている塾のテキストでかまいません。算数の図形や国語のことばの知識など今まで勉強したときに、「ちょっとここがわからなかったな」という部分を5日間だけ毎日復習してみてください。苦手だなと思っていたところが逆に得意になるはずです。

4 読書しよう

学校で感想文の宿題が出されている人もいるでしょうが、「読まなきゃいけない」本以外に、自分の興味のある「読みたい」本を図書館や本屋さんで探してみましょう。どんな分野の本でもかまいません。自分が読みたいと思ったその気持ちを大事にして、買ってきたらすぐに読み始めること。あまり時間を置くと読む気がなくなったりします。この夏休みはたくさんある時間を有効に使って、勉強も遊びもがんばってください。



中学部受験科

夏期講習前期は今までの復習が中心、後期は2学期の予習中心の授業になります。部活動などで忙しいという人もいるでしょうが、できるだけ1日も休まずに授業に参加して、弱点補強と得点力アップを目指しましょう。

〈中1 受験科〉

国語…前・後期とも長文読解を中心に演習します。1学期に学習した小説・随筆・説明文などの読解法を復習しながら速読・速解の訓練を積み重ねるよい機会です。

数学…前期は、「文字と式」「平面図形」など一学期の内容をもう一度レベルアップさせて復習します。全問解けるようにチャレンジしてください。後期はいよいよ「方程式」を勉強します。かつこのはずし方や移項の方法を身につけ、計算ミスをしないように気をつけましょう。

英語…中学校での英語、うまくスタートを切れたかな。この夏はbe動詞の文と一般動詞の文との違いを完璧にマスターしよう。後期は三人称単数の一般動詞の文を勉強します。「s」「es」のつけ方と否定文、疑問文の作り方に注意してください。

〈中2 受験科〉

国語…この夏、ぜひやってほしいことは漢字と文法の練習です。漢字は塾で使っている漢字練習帳を最初から練習しよう。文法は1学期に学習した内容をもう一度やり直しをしましょう。

数学…この夏のテーマは連立方程式の完全マスターです。1学期に学習した内容ですが、まだまだ身につけていない人も多いはず。また、後期に学習する1次関数は、中2の学習範囲の中でも最重要単元です。2学期の成績アップのためにも、先取り学習をして友達に圧倒的リードをつけよう。

英語…「英語が最近少し難しくなってきたな」と感じているキミ。講習会前期で復習する内容を後期までに完全にマスターしてください。そうすれば、必ず弱点が克服できるはず。また後期で習う「助動詞」は中2の英語の中で最も重要な単元の1つです。繰り返し繰り返し練習して身につけましょう。

〈中3 受験科〉

国語…この夏は長文読解と古文の集中特訓です。読解が苦手だという人は、この夏で長文に慣れてください。また、漢字の練習も毎日少しずつ、欠かさずに行うこと。

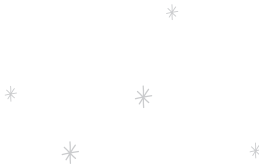
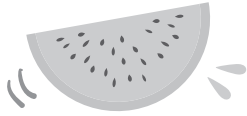
数学…前期は1年～3年1学期までの総復習。中期は2乗に比例する関数と相似、後期は相似と計量、円周角の定理が中心。入試に必ず出題されるたいへん重要な内容です。どんどん新しいことが出てきて少し難しいかもしれませんがしっかりと復習し、繰り返し練習してついてきてください。

英語…この夏は動詞に注目しながら文の作り方を復習します。前期は復習中心。後期は間接疑問文、仮定法、付加疑問文・否定疑問文について。入試頻出の書き換え問題にも慣れましょう。

理科…前期は生物分野。きちんと知識を積み上げて確実な得点源にしてください。後期は電流と力学の分野です。入試演習に備え、基本事項を完璧に理解しておくことを意識しましょう。

社会…後期から始まる公民では、ただ単に用語を暗記するだけではなく、図や表を理解することが大事。また、さまざまな数字が出てくるので区別しながら覚えてしまおう。

2023年度 夏のスケジュール

日 程	行事	備 考	日 程	行事	備 考
7月16日(日)	1学期	 ●1学期平常授業終了	8月11日(金)	夏期特訓合宿	●小5・小6・中2・中3 受験科の希望者のみ。 ●合宿地(長野県・車山高原) 
17日(月)			12日(土)		
18日(火)			13日(日)		
19日(水)			14日(月)		
20日(木)	休講	●全員必修の講習会です。 なるべく全日程ご参加下さい。	15日(火)	休講	●学校の宿題はここで一気に 片付けてしまいましょう。 
21日(金)			16日(水)		
22日(土)	夏期講習		17日(木)		
23日(日)			18日(金)		
24日(月)			19日(土)		
25日(火)			20日(日)		
26日(水)	休講		21日(月)	休講	
27日(木)	22日(火)				
28日(金)	23日(水)				
29日(土)	24日(木)				
30日(日)	25日(金)				
31日(月)	26日(土)				
8月1日(火)	夏期講習	●小6受験科・公立受験科・ 中3受験科のみ必修の講習会です。 	27日(日)	休講	●2学期準備のため休講となります。ご注意下さい。 
2日(水)			28日(月)		
3日(木)			29日(火)		
4日(金)			30日(水)		
5日(土)	休講		31日(木)	2学期	●2学期平常授業開始 
6日(日)	9月1日(金)				
7日(月)	2日(土)				
8日(火)	3日(日)				
9日(水)	4日(月)				
10日(木)	休講		5日(火)		